

# 前回の委員ご意見

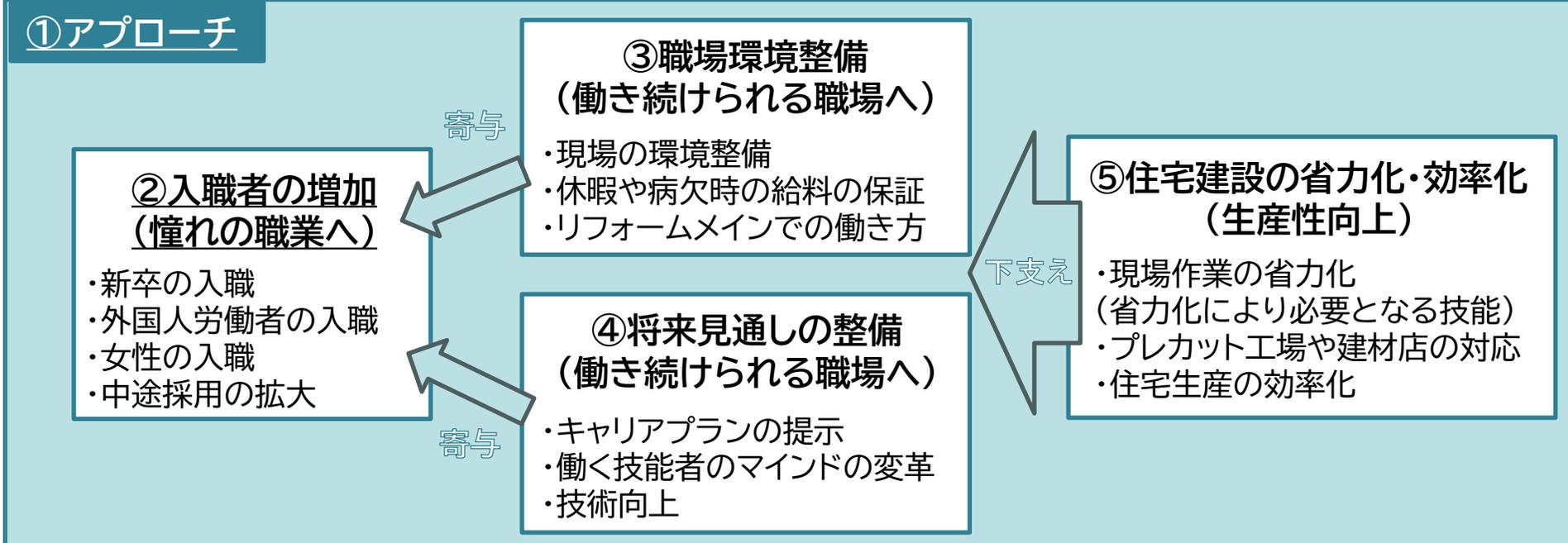
---

# 住宅生産に関わる担い手が安定的に確保された目指すべき社会のイメージ

- 住まい供給の担い手である住宅分野の建設技能者の確保に当たっては、まずは住宅分野の建設技能者になる入り口の「**入職者の増加**」、次に技能者の離職率を減らすための「**職場環境や将来見通しの整備**」が必要と考えられる。また、それらの取組を行ってもなお、質の高い住まいの安定的な供給・適切な維持管理のために労働力が足りないことが考えられるため、「**住宅建設の省力化・効率化**」を図る必要がある。
- 住宅分野の建設技能者が確保された質の高い住まいの安定的な供給・適切な維持管理が行われる社会の実現に向けて、これらの観点を踏まえて、業務形態に応じた課題に対処する必要があるのではないか。

**【実現したい社会】**  
質の高い住まいの安定的な供給・適切な維持管理を行うための  
**住まい供給の担い手である住宅分野の建設技能者の確保**

共通の視点



## (1) 入職者を増やすにはどうしたらよいか。

大工の雇用を目指していく場合、経営の話に踏み込んで議論しないと雇用につながらない。資本力がある会社は制度がすでに存在し大工を雇用できるが、資本力も制度も整っていない会社では社員大工化まで至っていない状況があり、これをどうするかという問題がある

女性大工を増やすには、女性が大工関連作業（パネル製造含む）のうちどの工程であれば体格差等を懸念せずに仕事につくことができるか具体的に示していく必要がある。

高校生の就職には厚労省の「つなぐ化」事業の活用事例のように大工と接する経験は就職活動に有効。

大工はブラック、低賃金という印象が強いためか、入学時点と卒業時点では希望者数が大きく変わる（親御さんの意向も含む）。

工業高校の熱心な先生とつながると雇用のルートができるが、県立高校だとその先生の異動範囲が広いので途切れてしまう。雇用のルートを確保することは工務店にとって大変なこと。

左官業界では継続的に高卒者を受け入れている事例がある。

入職の間口を広げるには幸せそうに見えないといけない。大工に適正価格で働いてもらうことが必要で、楽しそうに仕事していれば大工の見え方も変わってくる。

## (2) 職場環境をどのように整備したらよいか。

待遇は改善されて来ているということがデータからも分かる。やれることはやってきているのではないか。

建設業では適正な時間管理が行われていないため、法定通りの割増賃金が払われていないこともあるため、現実的には助成金の申請は難しい。

日給月払いが解決していない中で、4週8閉所に休みだけ増えることが良いわけではない。本来、日給月払で4週8閉所実現するためには、休日が増えても賃金が下がらないような体制（単価をあげる、業務改善による効率化をする等）を作っていかななくてはならない。またその体制ができていないのであれば、制度として、休みを優先する者と稼ぎを優先する者両方をダブルスタンダードで認める運用も必要ではないか。

工務店として雇いたくても雇われたがらない一人親方がいるという声を聞いた。それは、自由に仕事をして稼ぎたいからなのか、適正賃金が支払われていないことによるものなのか。雇用されたがらない背景を明らかにした方がよい。

## (3) 将来の見通しを持って働くにはどうしたらよいか。

中小工務店の良い点は、働きやすさや多様な働き方が実現できること。一方で、労働条件は必須なので、中小工務店は認識を改めるべき。中小工務店の働き方のロールモデルを示せると良い。

若い人で早朝から夜遅くまで働きたい、とにかく早く稼ぎたいと思っている人もいれば、熟練した人は無理せず丁寧に2週間かけて仕事したいと思っている人もいる。

建築の場合、伝統工芸品と100均で扱う物が混在しているが、その適正な価格差（例えば、職人が作る物の価格は2～3倍掛かること）は消費者に伝わっていない。価格を抑えたいならば工業化製品を推奨することを示さないといけない。ものづくりの楽しさを訴えることも必要だが、住宅供給量の維持のために消費者への訴求が必要。フェアトレードが根付くように、消費者意識が高まらないと民間発注者も変わらない。

職人一人では弱い立場だが、医者・弁護士のように社会的な影響力を強くし、価格交渉力を高めるため、業界としての団結も必要ではないか。

## (4) より省力化、効率化をどのように目指せばよいか。

プレカット・プレハブともに市場拡大を見越して工場を展開してきたので、技術革新の投資が起こらず、生産性向上が見込みにくいのではないか。

分譲住宅含め、今以上に生産性が向上すれば、大工が減っても需要に追い付かないことはないのではないか。どれくらい生産性向上の余地があるのか。

## (5) その他全体的なご意見

民間発注なので、施策を浸透させていくことがとても難しい業界だと思う、また、中小企業が多いので取組としてできることが限られているのではないかと。

住宅業界が抱える課題は資料の予測のとおりだと考えており、喫緊の課題。

新しい住宅建設のあり方（パネル化・プレハブ化）をこの懇談会でどこまで議論していくのか。

大工全体の1.5%が女性大工であることを切り口として懇談会でも議論したい。外国人の雇用も賛否はあるが、にっちもさっちもいかない状況まできている。

住宅業界に限らずクリエイターとオペレーターそれぞれの役割がある。技量やものづくりを追求するクリエイター的大工の教育や議論がされがちだが、現場で平準化されたものを作るオペレーター的大工の議論も重要で、それには外国人材を含めた議論も必要。また、担い手不足対策、平準化対策のひとつとして工場でのパネル製造での女性活躍などもありえるのではないかと。